

追手門学院大学創立 50 周年記念事業 第 2 回  
国際シンポジウム

「海域アジアとオーストラリア-政治経済の変動を読む-」

実施報告書

2015 年 12 月

追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所

## 1. 開催趣旨・目的

グローバル化の進展をともに、海を巡る国際政治が活発化している。中国がランドパワー（大陸国家）からシーパワー（海洋国家）へと変貌しつつあるなか、東・南シナ海や太平洋・インド洋を舞台とするさまざまな枠組みについて世界的な再編が進んでいる。本シンポジウムは、太平洋やインド洋という海域の視点から、アジアとオーストラリアを巡る政治経済の諸課題を検討することを目的とする。

## 2. 実施概要

(1) 日時 2015年11月27日（金）14:00～17:30（開場 13:30）

(2) 場所 追手門学院大阪城スクエア

(3) 参加者数 約40名

(4) 関係団体

主催：追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所

後援：大阪日豪協会、オーストラリア学会

(5) プログラム

14:00～14:10 開会のご挨拶

重松伸司（追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所所長）

14:10～15:30 基調講演『オーストラリアの抱えるアジアという難題』

”Australia’s Asia Conundrum”

プルネンドラ・ジェイン 氏（アデレード大学アジア研究所教授）

15:30～15:40 休憩

15:40～17:30 パネルディスカッション『海域アジアとオーストラリアの21世紀を考える』

出演者 プルネンドラ・ジェイン氏

堀本 武功 氏（国際政治学者・放送大学客員教授）

竹内 幸史 氏（拓殖大学大学院講師）

小林ハッサル 柔子 氏（オーストラリア国立大学研究員）

司会 重松 伸司（追手門学院大学オーストラリア研究所所長）

(6) 使用言語

基調講演：英語（逐次通訳付）

パネルディスカッション：英語・日本語（英語部分のみ逐次通訳付）

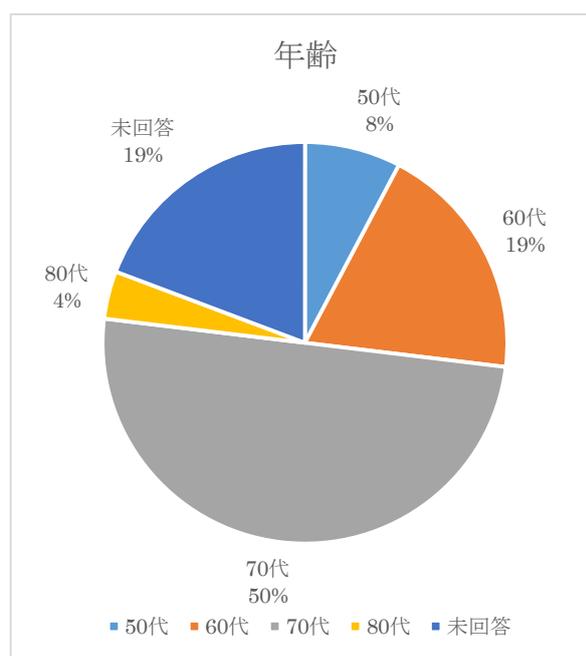
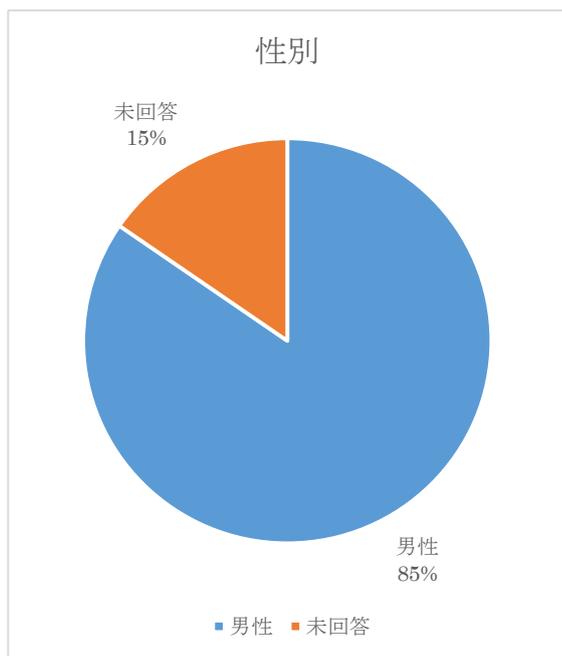
## 3. 来場者アンケート結果

(1) 回答者数 26名

(2) 実施方法 会場配布、退場時回収

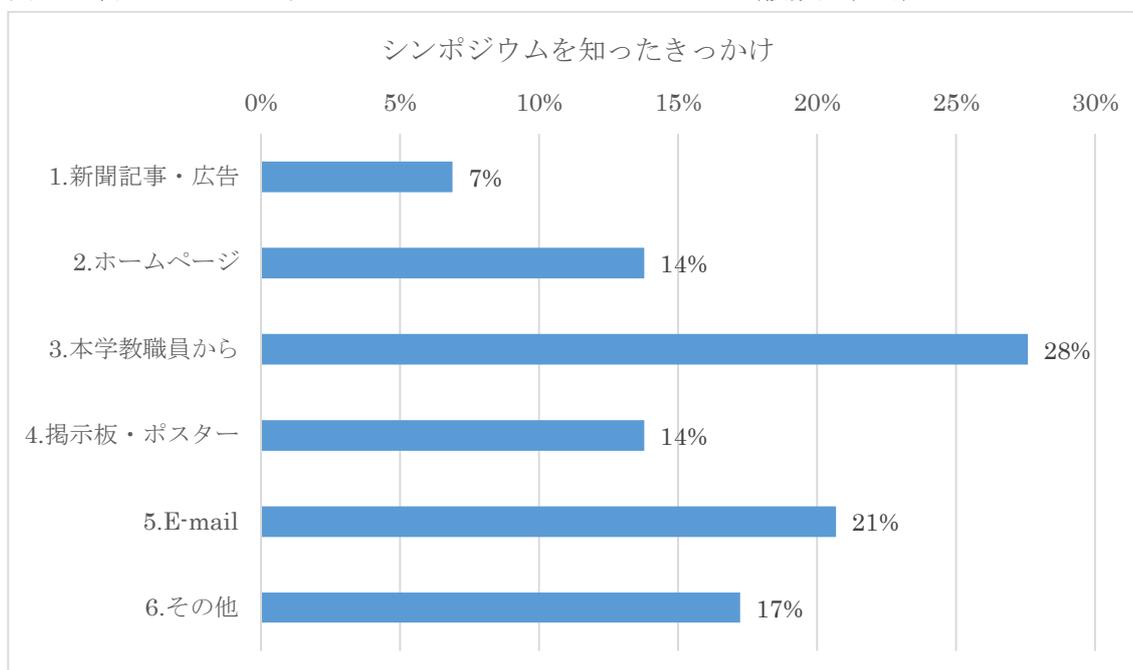
(3) 回答方法 記入式

#### (4) 回答者の性別・年齢

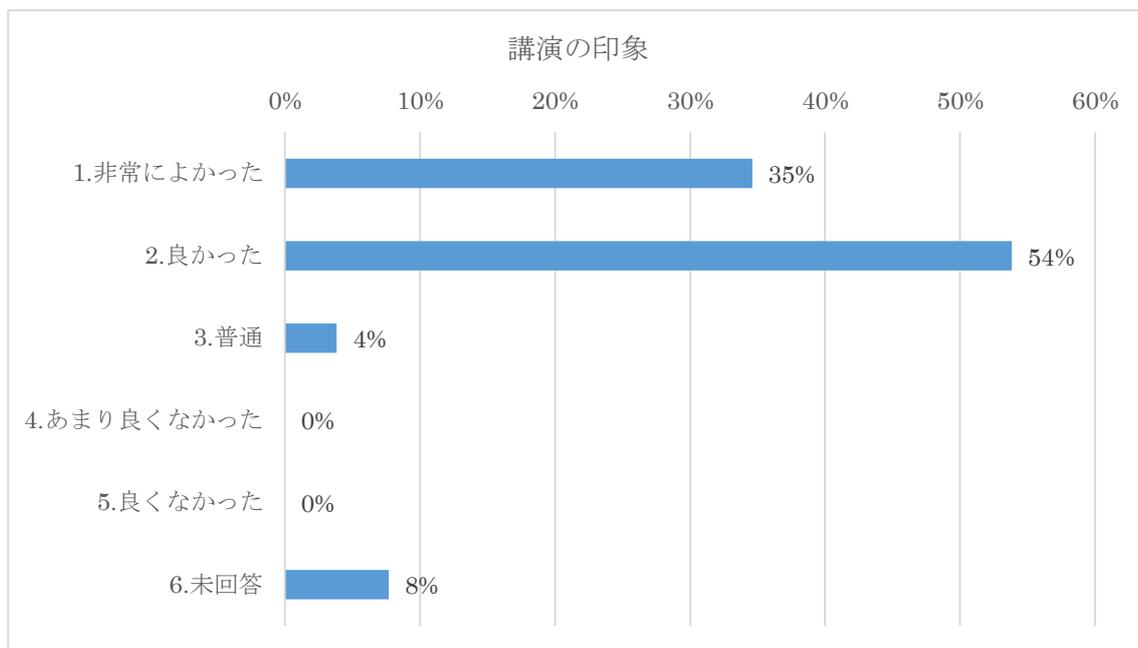


#### (5) 各質問への回答

問1 今回のシンポジウムをどこでお知りになりましたか (複数回答可)



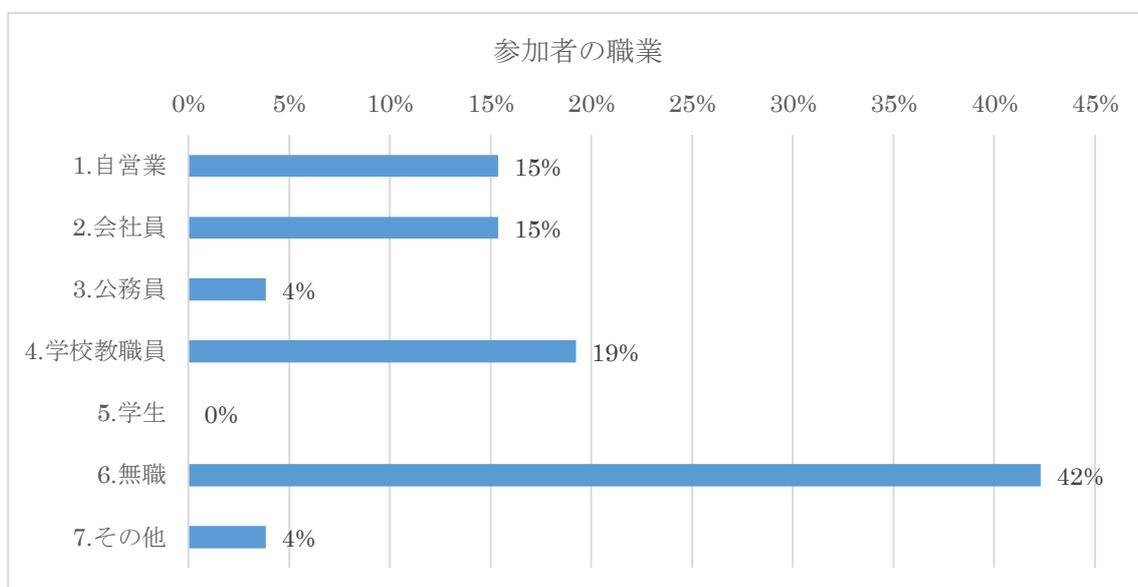
問2 今回の講演についてどのような印象をもたれましたか。



<自由記入欄（抜粋）>

- ・中国の台頭が今後この地域にどのような影響を及ぼすか深刻な問題であると共に大いに興味を持っている。今回の講演で参考になった。(70代男性)
- ・ジェイン教授の講演はよくまとめられて大変参考になりました。パネルディスカッションは格別面白かった。豪州に関する当面の問題は議論されたように思う。(70代男性)
- ・オーストラリアの見解、複眼で俯瞰出来る良い機会であった。(50代男性)
- ・オーストラリアをとりまく環境の変化及びその変化に対するオーストラリアの対応、政策の変化が良く分った。今後もこのようなセミナーがあれば参加したい。(属性不記入)

問3 ご回答者（シンポジウム参加者）のご職業についてお聞かせください。



問4 今後、当研究所で開催してほしいテーマ・講師等をお聞かせください。

<自由記入欄（抜粋）>

・今日のようなテーマで、Native オーストラリア人に多く来ていただき、オーストラリアの多くの政治、経済、文化面を講演していただきたい。又 ISIS の関係も無視できないので、その点も話して欲しい。(70代男性)

・アセアン、インド、オーストラリアにおけるイスラムについて。(70代男性)

・TPP 関連に伴うオセアニア地域と日本との関係について (50代男性)

・アメリカの経済力・政治力低下の下で、アジアはどうなるのか。(50代男性)

以上